

第4章 下小松古墳群分布調査

古墳名	下小松古墳群 薬師沢支群 Y-49号墳		
墳形	円墳	規模	9.1 m × 8.9 m
主体部		主体部規模	
特徴	高さ2.7 m (山寄せ) 陥没あり 周溝あり		
出土遺物			
調査歴		備考	
参考文献			

古墳名	下小松古墳群 薬師沢支群 Y-50号墳		
墳形	方墳	規模	10.5 m × 12.1 m
主体部		主体部規模	
特徴	高さ3.4 m (山寄せ) 陥没あり		
出土遺物			
調査歴		備考	
参考文献			

古墳名	下小松古墳群 薬師沢支群 Y-51 (第145)号墳		
墳形	円墳	規模	径23 m
主体部		主体部規模	
特徴	高さ3.0 m 周溝あり		
出土遺物			
調査歴	1987年	備考	
参考文献	大塚初重・小林三郎編『山形県川西町 下小松古墳群(1)』1995年		

古墳名	下小松古墳群 薬師沢支群 Y-52号墳		
墳形	円墳	規模	10.7 m × 13.5 m
主体部		主体部規模	
特徴	高さ5.3 m 陥没あり		
出土遺物			
調査歴		備考	
参考文献			

第5章 ま と め

1

下小松古墳群の調査を、川西町と明治大学との合同調査体制で実施することになって、早くも10年近い年月が経過した。この間、それに先行する川西町教育委員会による発掘調査の成果を再検討、再吟味しながら調査を進めてきた。小森山支群についてはK-7（第98）号墳をはじめとして、K-68（第40）号墳などを調査して、墳丘、内部主体の構造、副葬品その他の確認を継続的に実施してきた。その結果として、小規模ながら前方後円墳の墳形をとり、比較的封土の高いもの（K-7号墳）と低平な墳丘を示す（K-68号墳）との二者が存在することを知った。内部主体は、地山に深い土壌を穿ち、おそらくは箱形木棺を納めたと考えられる共通した埋葬構造をもつことも確認した。副葬品の少ないことや、墳丘頂部における土器を用いた祭祀的遺構は検出できなかったが、出土品から推定しうる年代、すなわち西暦5世紀中葉～6世紀初頭頃の全国的な視野の中での古墳として認識することが可能となった。

米沢盆地全体を見渡して、古墳分布域を観察すると、南陽市稲荷森前方後円墳を中心とする古墳のグループがあり、それに先行すると考えられる蒲生田山古墳群の発見などがあって、米沢盆地の古墳時代開始の時期について新たな資料が提示された。高島町安久津古墳群も、全体としては小群ながら円墳、横穴式石室を軸とした古墳群として、かなり時間を限定しうるものとして重要と考えられる。

米沢市域に属するものとして、宝領塚前方後方墳と戸塚山古墳群があって、ことに戸塚山古墳群の中には石棺を内部主体とする例があり、米沢盆地内での特徴的な古墳の姿を見せてくれている。戸塚山古墳群の中心年代は推定の域を出ないが、5世紀代中葉ごろを上限としたものではないかと考えている。

米沢盆地の北部、東部には以上のような分布を示す古墳群が見られるが、盆地西域に存在するものとして川西町下小松古墳群がある。天神森前方後方墳を下小松古墳群中に含めて考えるか否かは、古墳群全体像が大方判明する段階で改めて検討すべきことである。

これは古墳群の各古墳築造の継承性が把握できるか否かによって解釈が異なるからである。現段階では、天神森古墳と下小松古墳群の開始時期に、かなりの時間差があると思われるので、早計に両者の有機的関連性を把握していきたい。

2

下小松古墳群の小森山支群には、前方後円墳が少なくとも17基確認されている。しかし、鷹待場支群では2基の前方後円墳が確認されているにすぎない。また、薬師沢支群では前方後円墳が全く確認されていない。この分布状況からみると、三支群はそれぞれ性格の異なった被葬者群とその集団によっていとなまれた可能性が強く感ぜられる。

三支群の開始時期をまず問題とせざるをえない。小森山支群の上限年代を、不確定要素を用いながら5世紀中葉頃と推定した。これはK-7(第98)号墳を基に推定した年代である。鷹待場支群では、丘陵先端部に占地するT-41(第106)号墳と、かつて川西町分布調査で発見されたT-42(第186)号墳の墳丘出土土器片による年代推定、すなわち5世紀中葉ごろを下限とみて、小森山支群の開始年代との差異を認めがたいのではないかと結論してみた。これら2基はいずれも円墳と考えてよいもので、とくにT-42(第186)号墳は内部主体を検出しえなかったため、その年代観は土器片にのみ依拠していて不確定である。しかし、墳丘封土は定石どおりの方法で行なわれているので、古墳と断定してよい。発掘調査は、松茸の収穫との関係で局所に限定されていたので止むなく中断せざるを得なかった。

鷹待場支群中の数少ない前方後円墳(T-9号墳)は立地条件がきわめて特異であった。また、内部主体の営まれた位置もK-7(第98)号墳と共通していた。すなわち、墳丘主軸を外して盆地平野部に偏していた。木棺直葬による埋葬と推定しているが、土壙の規模の大きい点でも共通している。副葬品を比較すると若干の差異があつてT-9号大塚古墳が5世紀代後半に下降する可能性がある。

鷹待場支群の古墳分布の濃密な部分の分布調査を実施して、T-1号墳の発掘調査を実施した。立地条件が丘陵先端部にあることが選定の理由である。墳頂部の陥没痕が少ないことが土壙の規模を推定させたが、木棺直葬の内部主体を調査することができた。土壙と木棺の間隔を粘土で充填する手法はT-9号大塚古墳の手法と共通しており、鉄製鋤先の副葬なども年代的な接近を推定させる。古墳築造の継承性を検討すべき材料として、下小松古墳群全体を見据えて、今後の課題としたい。

報 告 書 抄 録

ふりがな	しもこまつこふんぐん (2)
書名	下小松古墳群 (2)
副書名	
巻次	
シリーズ名	川西町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第18集
編著者名	小林三郎 新井 悟 遠竹陽一郎 柳下恵理子 斉藤敏明
編集機関	明治大学考古学研究室
所在地	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-1 TEL 03-3296-4432
発行機関	川西町教育委員会
所在地	〒999-0193 山形県東置賜郡川西町大字上小松 1736-2 TEL 0238-42-2111
発行年月日	西暦 1999年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しもこまつこ 下小松古 ふんぐん 墳群	ひがしおきたまぐん 東置賜郡 かわにしまちおお 川西町大 あざしもこまつ 字下小松	6382		38度 1分 20秒	140度 4分 32秒	19950720		学術調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下小松古墳群	古墳	古墳時代	方墳3 前方後円墳1	大刀、U字形鋤 先、鉄鏃、鉞、 刀子、鑄子、豎 櫛、ガラス小玉 など	下小松古墳群は 前方後円墳19 基を含む総数 179基の古墳群 である。

写 真 图 版

Pl.1 鷹待場支群T-41(第106)号墳



1. 墳丘遠景 (東より)



2. 墳丘 (西より)

Pl.2 鷹待場支群T-41(第106)号墳



1. 西側周溝 (南より)



2. 東側墳裾 (南より)

Pl.3 鷹待場支群T-41(第106)号墳



1. 拡張区北壁セクション (南より)



2. 墳頂調査区セクション (西より)

Pl.4 鷹待場支群T-41(第106)号墳



1. 主体部検出状況（東より）

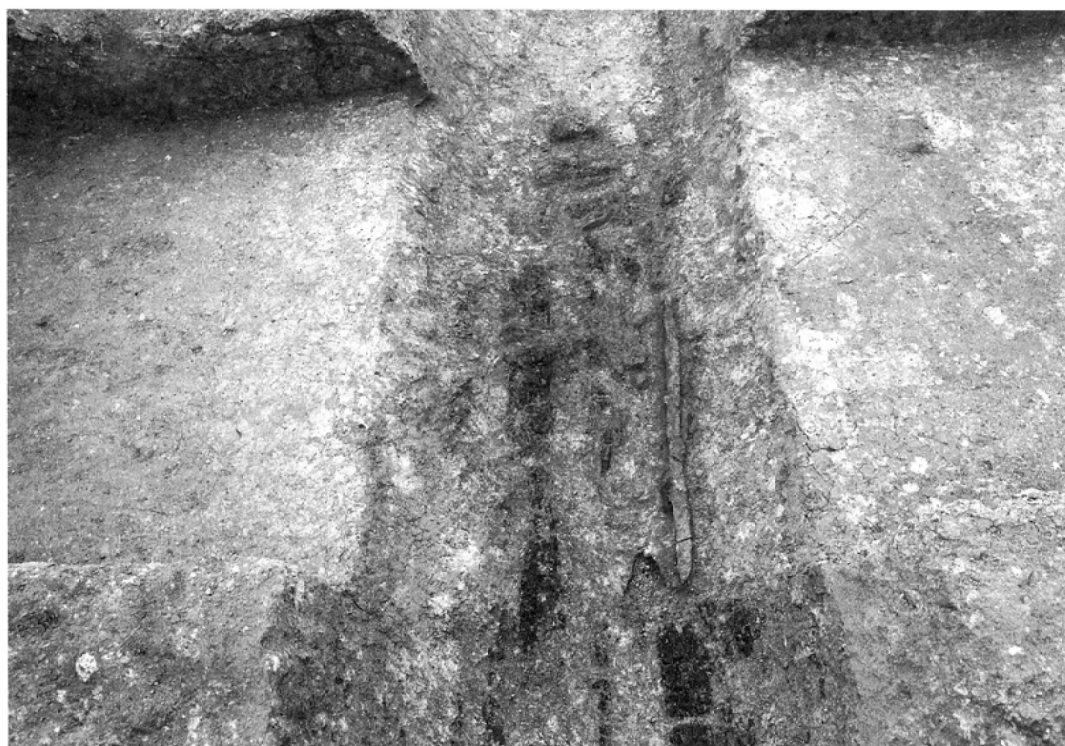


2. 主体部完掘状況（西より）

Pl.5 鷹待場支群T-41(第106)号墳



1. 主体部完掘状況近景（西より）



2. 主体部副葬品出土状況（西より）

Pl.6 鷹待場支群T-42(第186)号墳



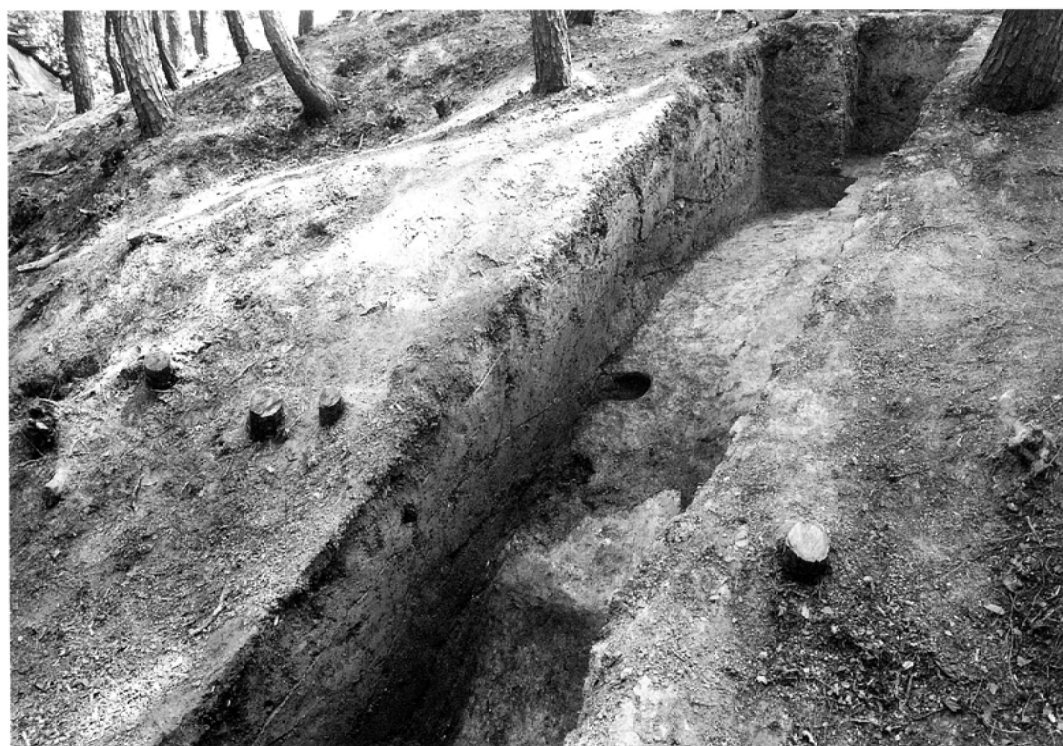
1. 墳丘 (北より)



2. 1トレンチ南壁セクション (北より)



1. M調査区(南より)



2. N調査区北壁セクション(南より)



1. 墳頂東西セクション (南より)



2. 墳頂東西セクション西寄部分 (南より)

Pl.9 鷹待場支群T-9号墳



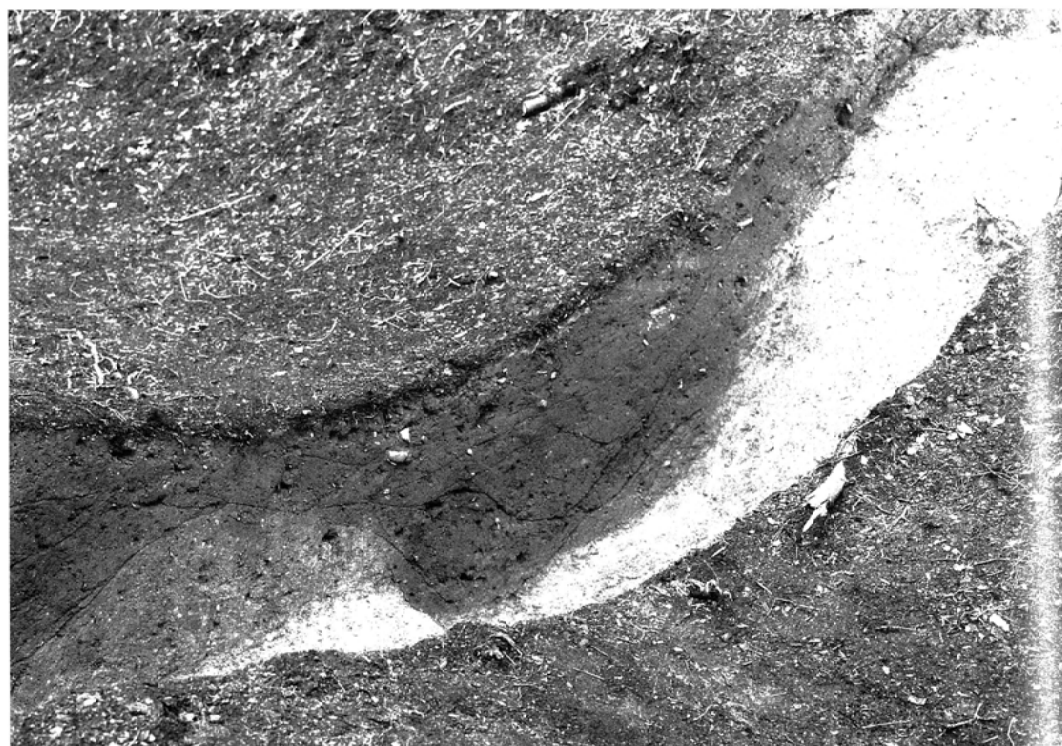
1. 墳丘（東より）



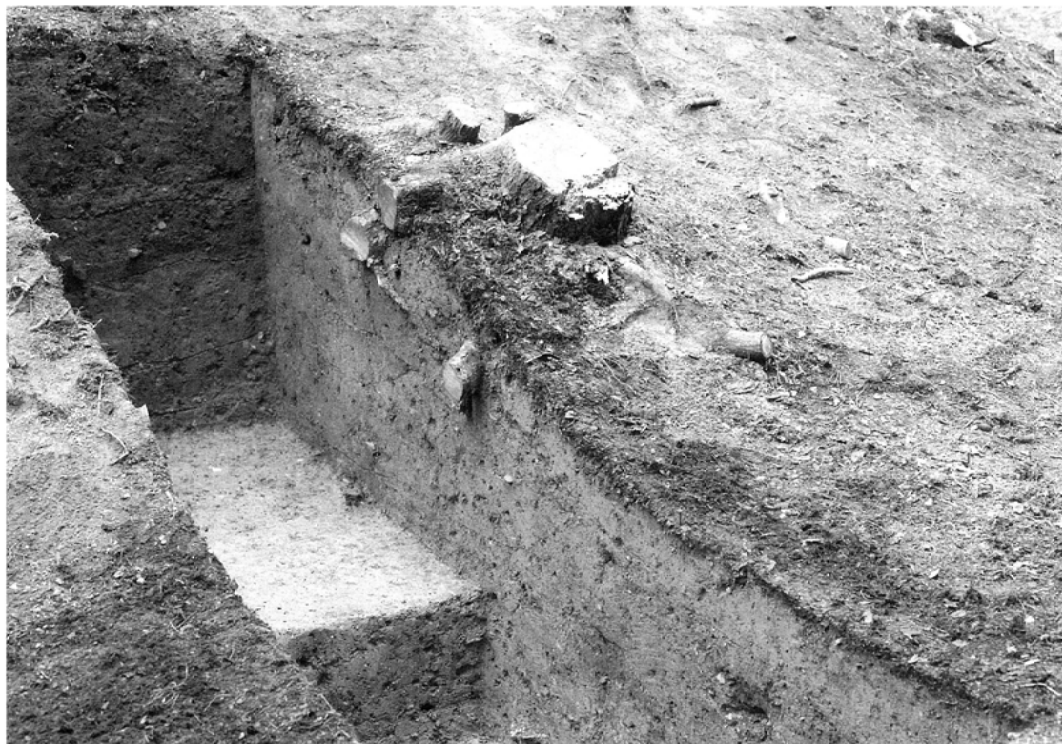
2. 墳丘（西より）



1. 墳丘 (南東より)



2. 1トレンチ南壁セクション (北より)



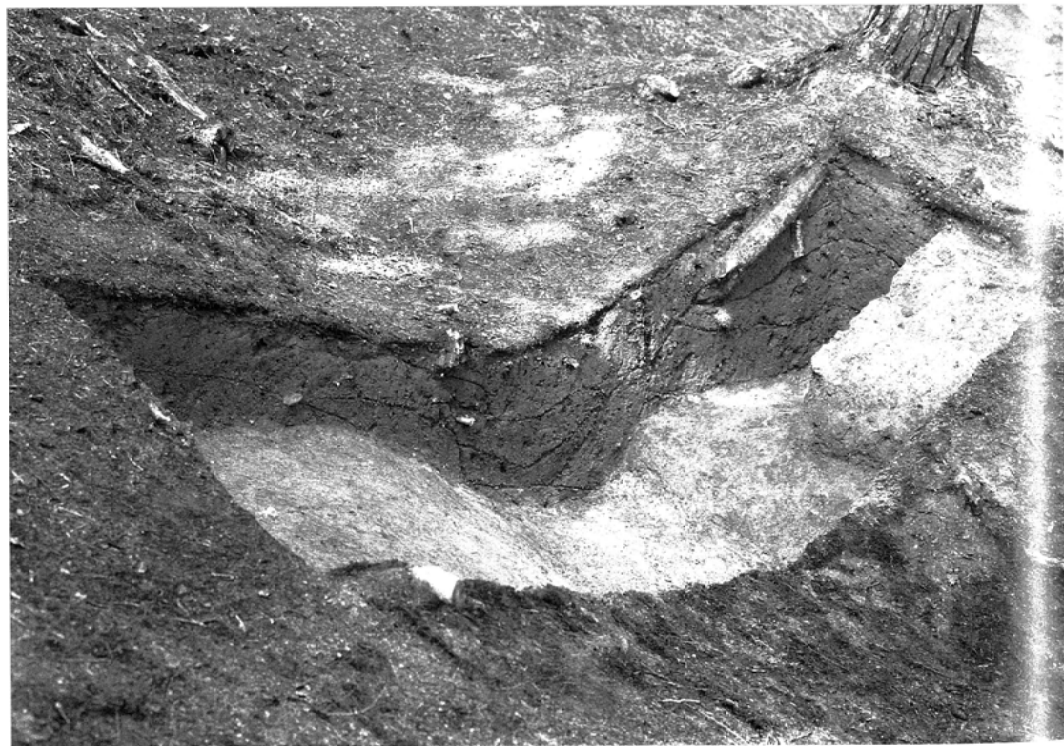
1. 2トレンチ東壁セクション (南西より)



2. 3トレンチ南壁セクション (北東より)



1. 4トレンチ北東壁セクション (南より)



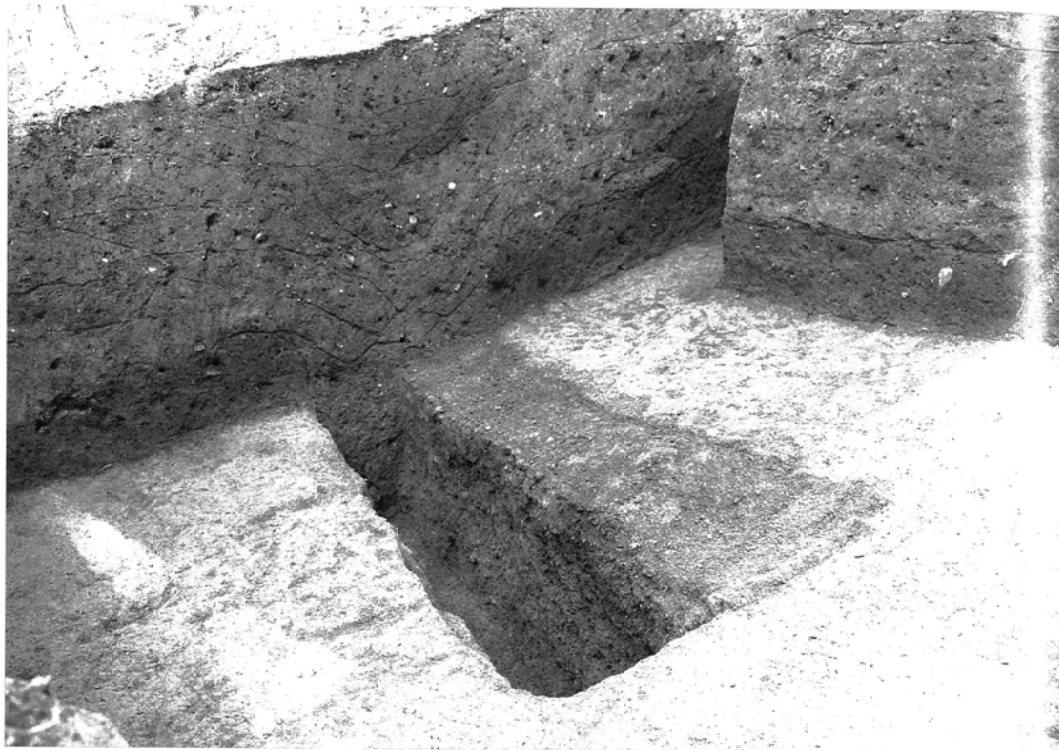
2. 5トレンチ北壁セクション (南西より)



1. 主体部南北セクション（東より）



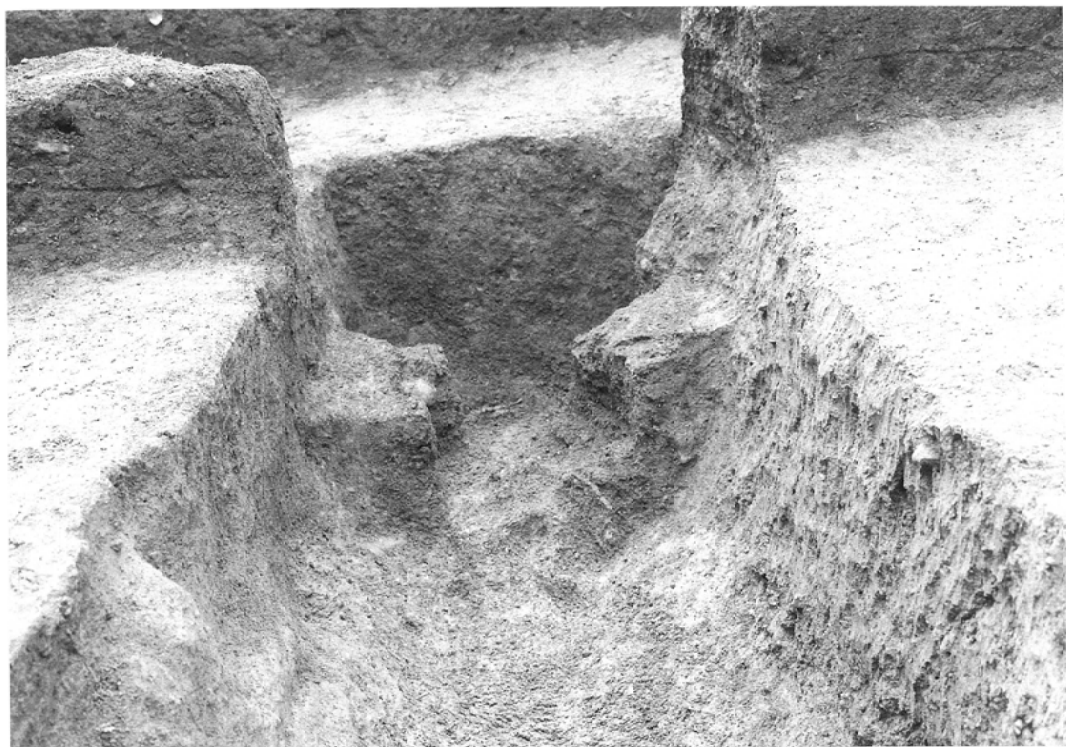
2. 主体部南北セクション（西より）



1. 主体部東西セクション (南東より)



2. 主体部完掘状況 (西より)



1. 主体部副葬品出土状況・拡大1（東より）



2. 主体部副葬品出土状況・拡大1（西より）



1. 主体部副葬品出土状況・拡大2（東より）



2. 主体部副葬品出土状況・拡大2（西より）

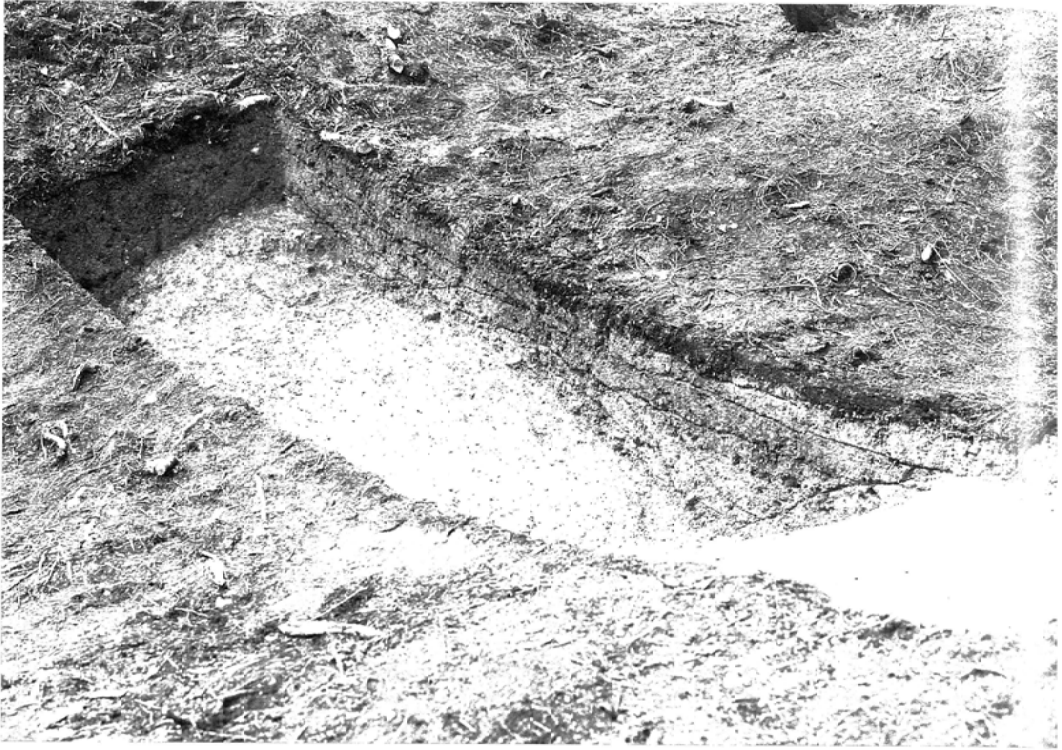
Pl.17 鷹待場支群T-1号墳



1. 墳丘（南より）



2. 墳丘斜面（南東より）



1. 1 トレンチ西壁セクション (北東より)



2. 2 トレンチ南壁セクション (北より)



1. 3トレンチ東壁セクション（南東より）



2. 4トレンチ南壁セクション（北西より）



1. 墓壇検出状況1 (南より)



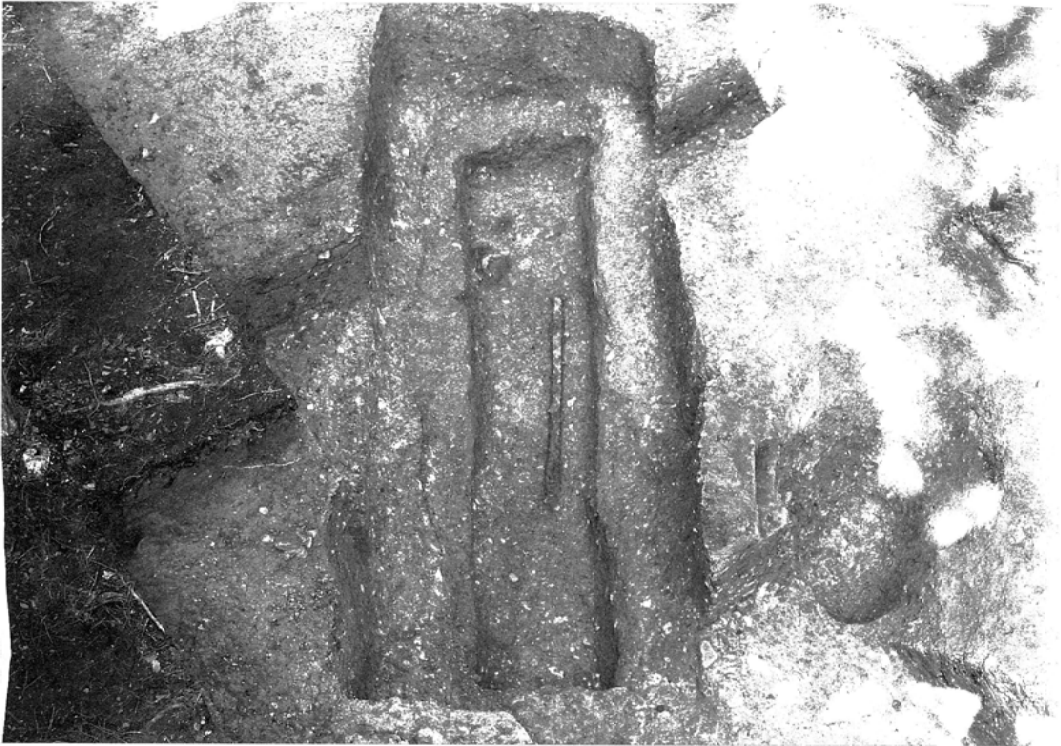
2. 墓壇検出状況2 (南西より)



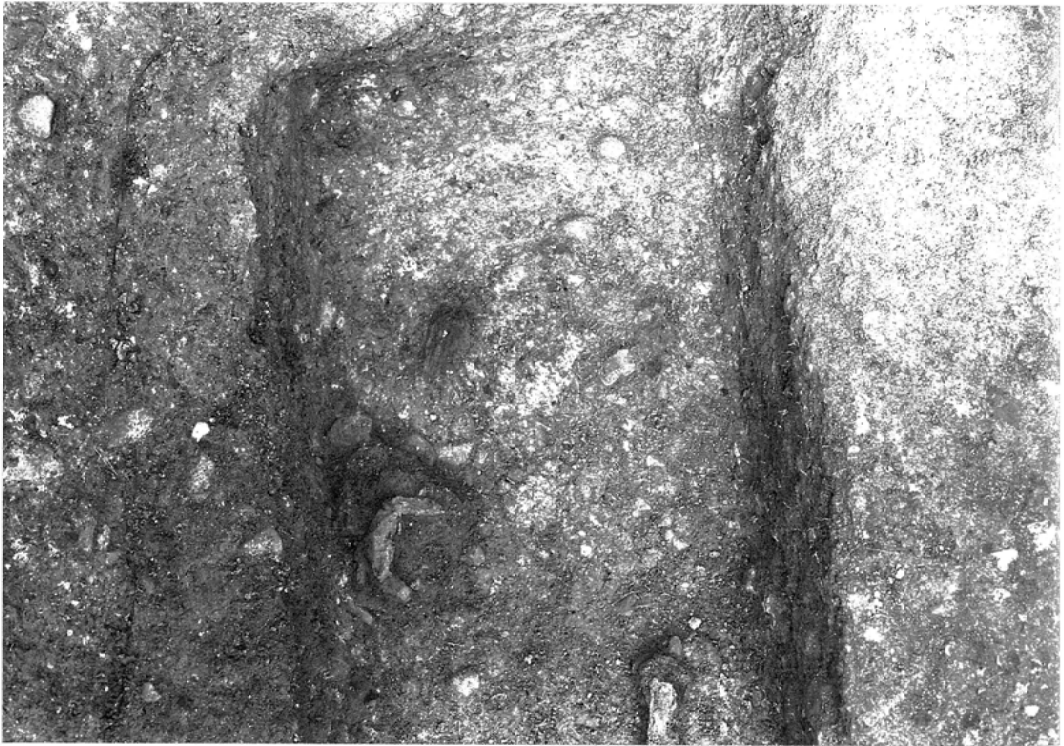
1. 主体部 e-e' セクション (南より)



2. 主体部 f-f' セクション (北より)



1. 主体部完掘状況（南西より）



2. 主体部副葬品出土状況1（南西より）

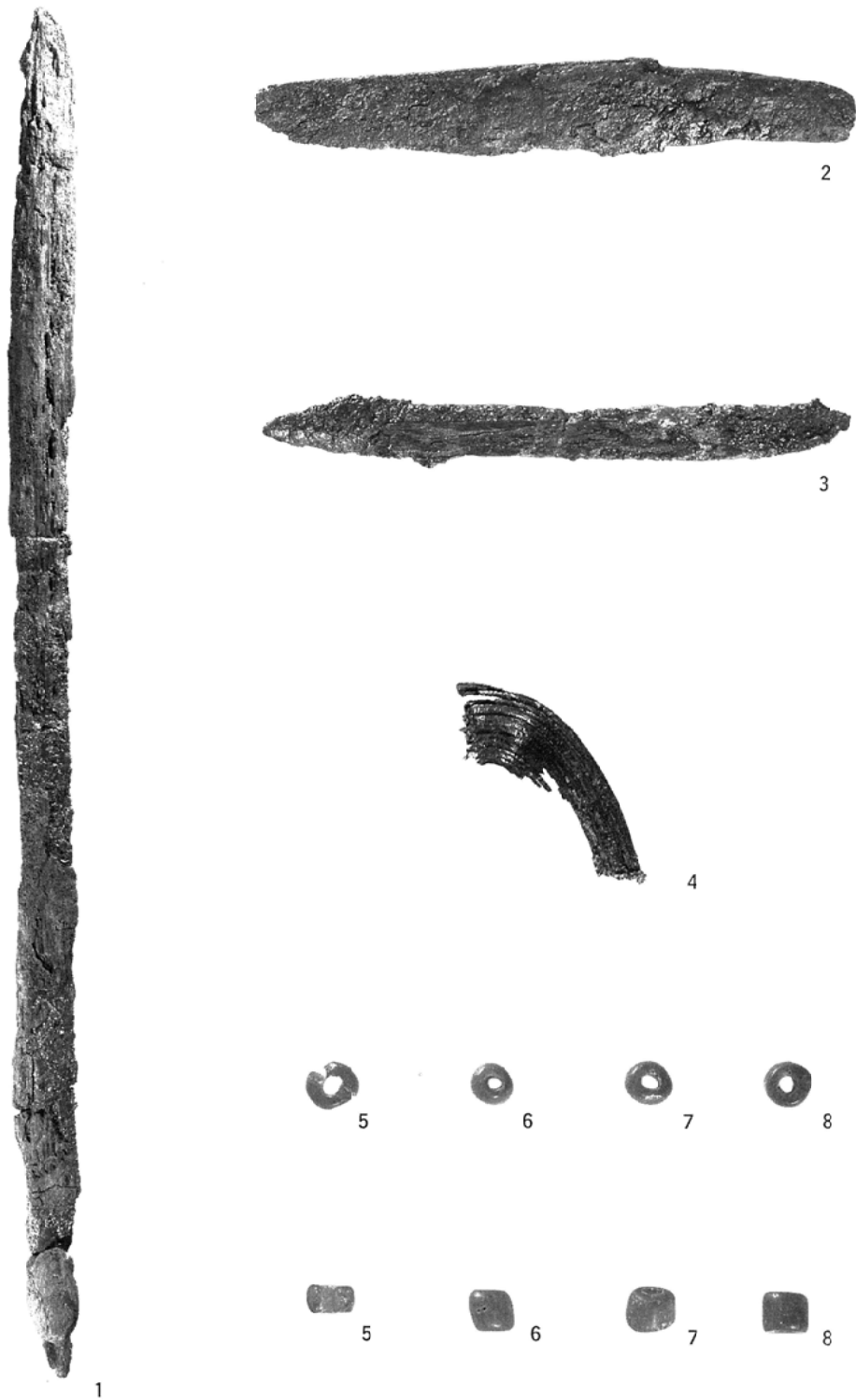
Pl. 23 鷹待場支群T-1号墳



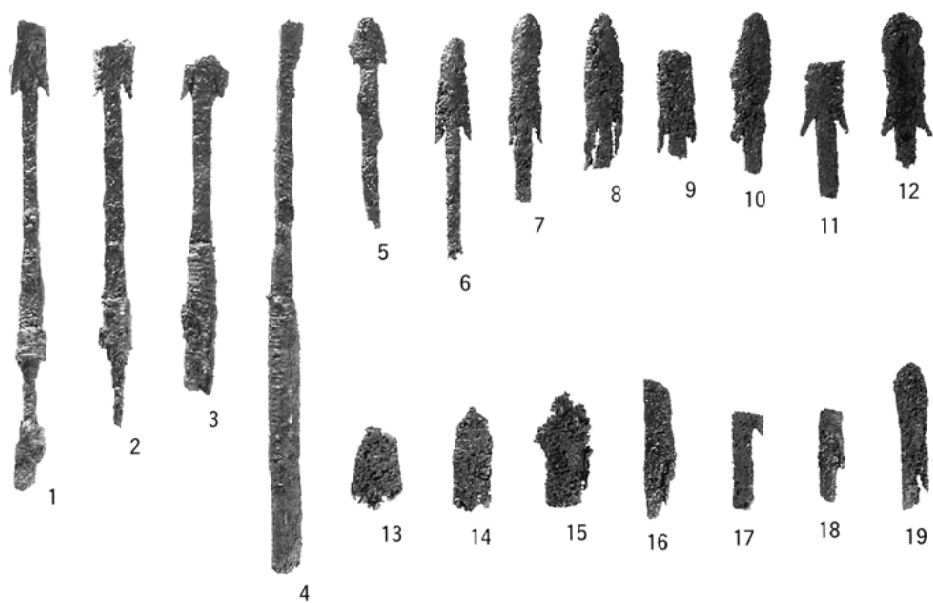
1. 主体部副葬品出土状況2 (南西より)



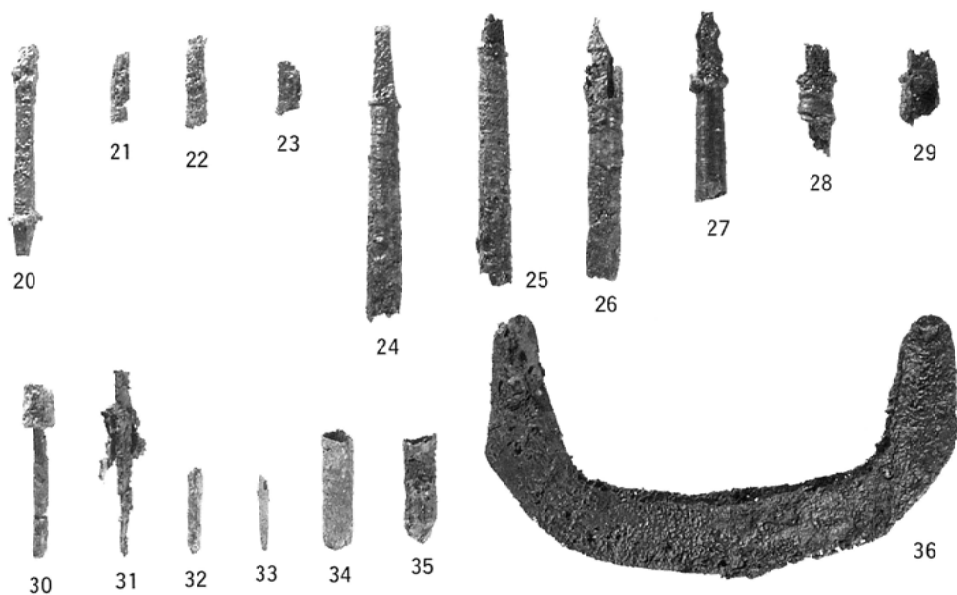
2. 大刀出土状況 (北西より)



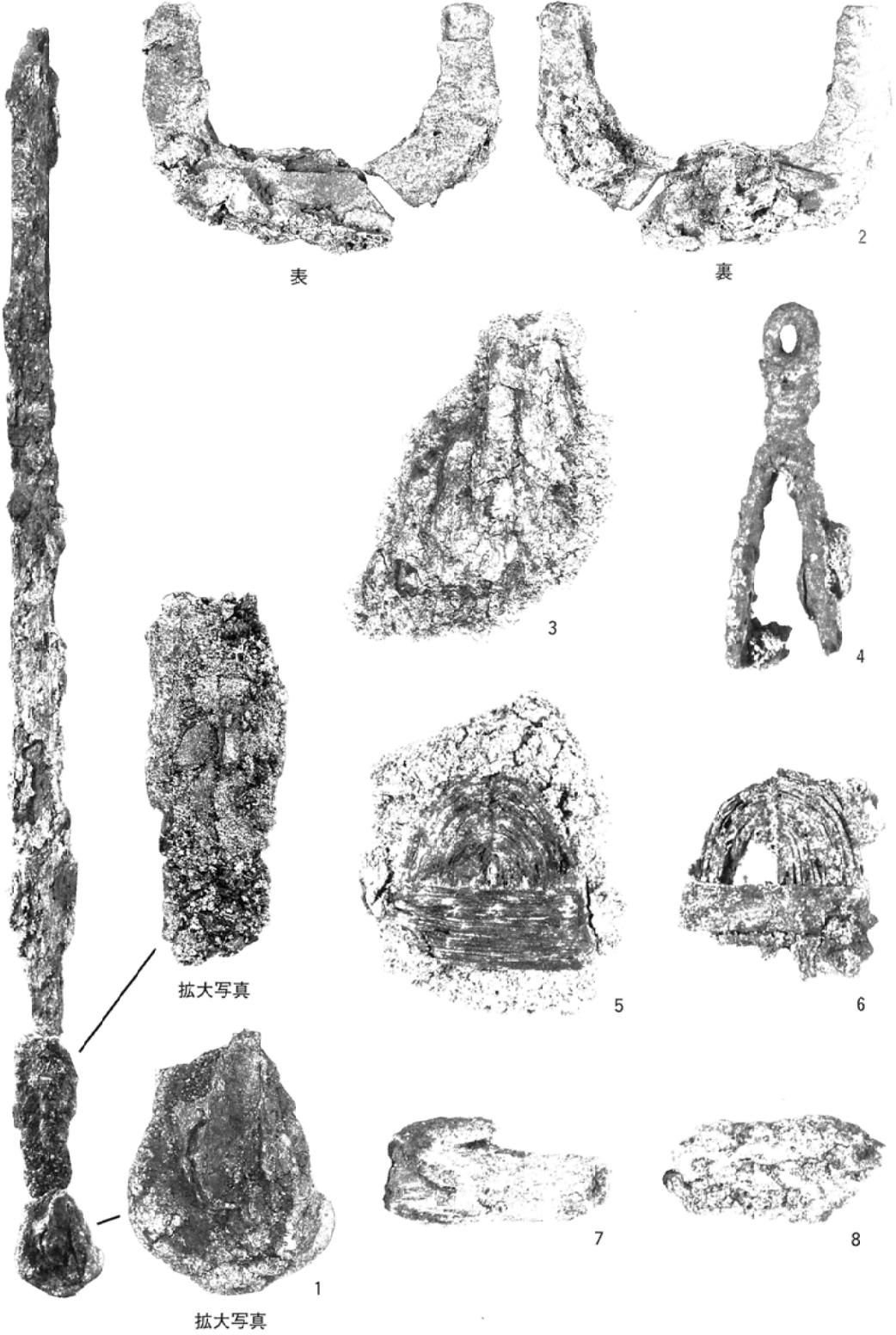
1. 出土遺物



1. 出土遺物 1



2. 出土遺物 2



1. 出土遺物

下小松古墳群(2)

1999年3月20日 印刷

1999年3月31日 発行

編 者 小^こ 林^{ばやし} 三^{さぶ} 郎^{ろう}

発 行 者 川西町教育委員会
社 会 教 育 課

印 刷 所 (資)芳文社長井活版所

発 行 所 山 形 県 川 西 町

〒999-0193 山形県東置賜郡川西町大字上小松1567

電話 0238-42-2111(代)
